文芸ひろば

詠歌の紹介

千代田俳句同好会

薔薇の実のみな空向きてアーチ門　飯沼礼子
二百年たちし古民家柿撓わ　大西周
秋の空筑波の山のすそ長く　加藤貞江
秋茜群れて筑波の風に付く　北野良雄
虫の音のまた聞こえたり遠筑波　熊沢鉄雄

紫陽花俳句会

碧い空鳥にやさしい木守柿　飯田功
うたたねの孫の寝顔や秋うらら　久保庭悦子
秋麗(うらら)少し歩いてみようかな　車田きみ
面売りの百面相や秋うらら　萩原とし子
深呼吸五臓六腑に秋もらふ　福田宏通

出島短歌会

十五夜に続くいざよいくっきりと吾幸せの中につつまる　飯島ヒロエ
じいじいの顔の絵を書きじっと見て「おまけ」とふざけ前髪を足す　名倉靚子
名も知らぬ花の咲くこと庭先の風がおしえてくれる春だよ　浜田留子
夕映えの波間にうつす限りなくみどりにちかい海を見送る　岡田恭子
「デイ」にての楽しみ多く職員の優しさ良き友話に花が咲く　小室貞江

投稿作品

番傘を広げて下駄を踏みしめし遠き昔を偲ぶ雨音　沽野はつ子
楠の木の上にありたるスーパームーン幼なにかえりて手を伸ばしおり　髙橋フミ
栗名月しずかに照りて明けぬれば木枯し一番初雪の報　渡辺静江
柿の実や布団(ふとん)の人のしわの手の鍬(くわ)うちし指(ゆび)こつこつとして　吉田正道
「ばあば」からばあちゃんになり祖母になる孫の成長は私のメモワール　菅谷咏子
秋の虫耳鳴り虫と二重奏　やまぐちいさむ
孫みやげひと味違ふ秋の朝　扶美世

▶投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。12月4日㈮までに情報広報課(〒300-0192 大和田562番地)へお願いします。

市民学芸員が語る シリーズ8 ジオパーク構想豆知識

帆引き船～霞ヶ浦の風物詩～

今回は、霞ヶ浦の風物詩と言われる帆引き船について紹介します。今回の記事では、帆引き船について私なりの考えも加えて、物語風にしてみました。

帆引き船は、当市出身の折本良平が、明治13年に発明したものです。その当時流行していた霞ヶ浦の漁法は、多くの人手を要する「大徳網漁」であり、この漁法は漁師一人当たりの収益が少ない漁法でした。そのため、良平は少ない人手で収益のあがる漁法はないものかと、いつも考えていたようです。良平は、帆を上げて水上を走る運搬船「高瀬舟」を見て、漁船に風力を利用することを考え、帆船に網をつけ水上に浮かべてみました。しかし、思うように魚が入ってくれず思い悩みます。

苦心のさなか、空に浮かぶ「あるもの」を目にしたことで、さらなる工夫を思い付きます。その「あるもの」とは「凧」です。良平は、風を受けて空に舞う凧を見て、船首と船尾に加えて、網を桁へも綱で連結させてみました。すると、たくさんの魚が獲れるようになったのです。これは、網の入り口が立体的に開くことが出来るようになったためでした。当初、良平が開発した帆引き船は、上層部を回遊するシラウオ漁に使われましたが、その後、中層部を泳ぐワカサギ用に改良され、さらに深い所まで曳くことが出来るようになりました。このように、良平の苦心と工夫によってめでたく湖上に浮かんだ帆引き船は、少しずつ改良を加えられ、瞬く間に広まっていきました。帆引き船による漁業が、最も多かった昭和20～30年代頃には霞ヶ浦・北浦と合計で900隻にも達し、まさに霞ヶ浦の風物詩となったのです。その後帆引き船は、エンジン付きの船による漁業にとって代わられたことで、一度は湖上から姿を消しました。しかし、多くの人々の待望を得て、観光帆引き船として復活。そして、平成26年度には霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法が、市指定無形民俗文化財となりました。しかし、現在後継者はいまだ少ない状態であり、まだ課題は残されています。湖上の白帆を守り、伝えていくことは、「帆引き船発祥のまち」に暮らす私たちの責務ではないでしょうか。次回は「師付の田井」について紹介します。(深井　征一郎)

問 郷土資料館 ☎029(896)0017

［フォトアルバム］

市HP QRコード

［Camera Report］

かすみがうらエンデューロ & 霞ヶ浦まるごとグルメフェス

10月10日、歩崎公園周辺で「かすみがうらエンデューロ&霞ヶ浦まるごとグルメフェス2015」が開催され、市内外はもとより県外からも多くの方が訪れました。レースは、霞ヶ浦湖畔の一周4.8㎞の周回コースを時間内に何周できるかを競う5時間エンデューロとママチャリCUP（2時間）、秋の収穫サイクリングが行われ1,129人が参加し、自慢の健脚を競いました。

同時開催の霞ヶ浦まるごとグルメフェスでは、霞ヶ浦周辺の特産品を使ったご当地グルメなどが大集合。終了時間前に完売するお店もある大盛況ぶりで、レースの参加者や応援に駆け付けた人たち、グルメフェスに訪れた人たちのおなかを満足させていました。また、ライダーのための野外音楽祭「野音祭」も開催され、ふるさと大使のオニツカサリーさんなどのアーティストが歌で会場を盛り上げました。